



令和2年国勢調査 人口等基本集計結果（3）

～未婚率～

国勢調査では単に人口を調査するだけでなく、配偶関係の調査も実施しています。今回のレポートでは、「自然増減（出生者数－死亡者数）」における出生者数への影響が考えられる配偶関係（未婚率）の推移を見ていきます。

（出生と婚姻の関係）

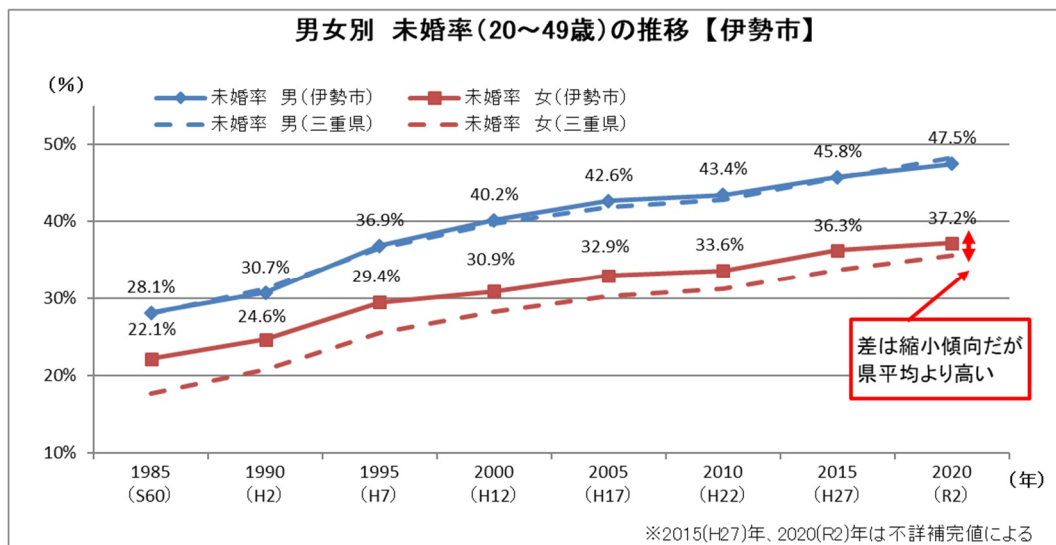
現代の日本社会では、婚外出生がほとんどないため、出生者数や出生率には、婚姻の状況が関係します。（※2019年人口動態調査によると、嫡出でない子（出生までの間、父母に一度も婚姻関係のなかった子）の割合は、全国で2.3%となっています。）
よって、次のように言えます。

$$\begin{aligned} \text{出生者数} &= \text{結婚した女性の数} \times \frac{\text{有配偶出生率}}{\text{結婚した女性の数}} \\ \frac{\text{合計特殊出生率}}{\text{出生者数}} \div \frac{\text{出生者数}}{\text{女性の数}} &= \frac{\text{女性の有配偶率}}{\text{結婚した女性の数}} \div \frac{\text{女性の数}}{\text{女性の数}} \times \text{有配偶出生率} \end{aligned}$$

合計特殊出生率
15～49歳までの女性の
年齢別出生率を合計した
もの

以上より、女性の有配偶率が上がる（未婚率が下がる）と合計特殊出生率は上がると考えられます。

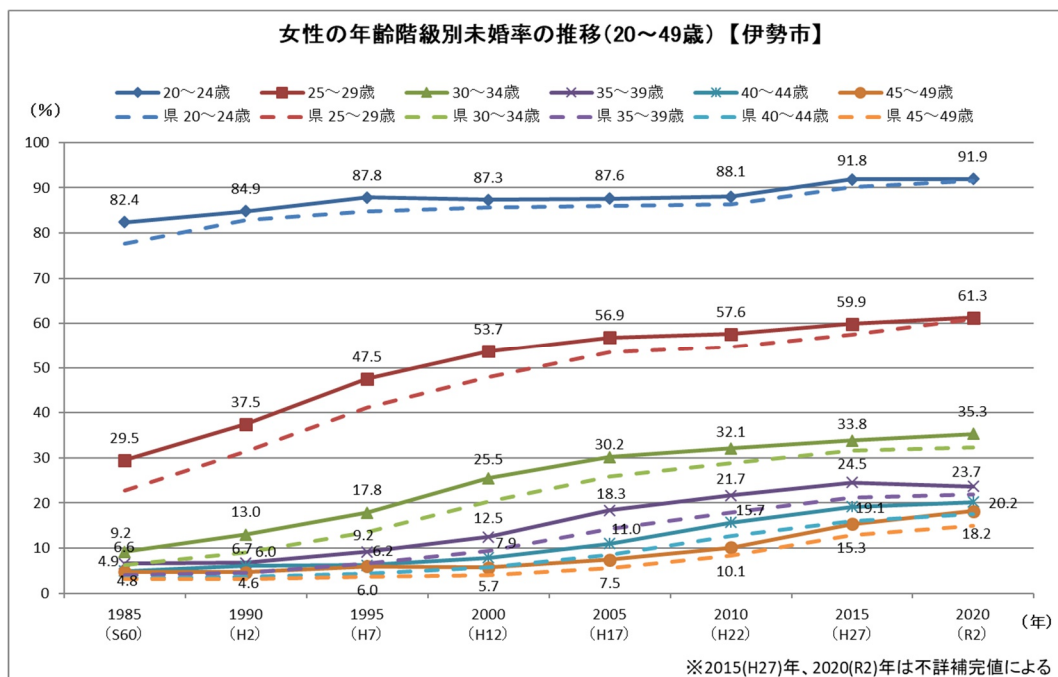
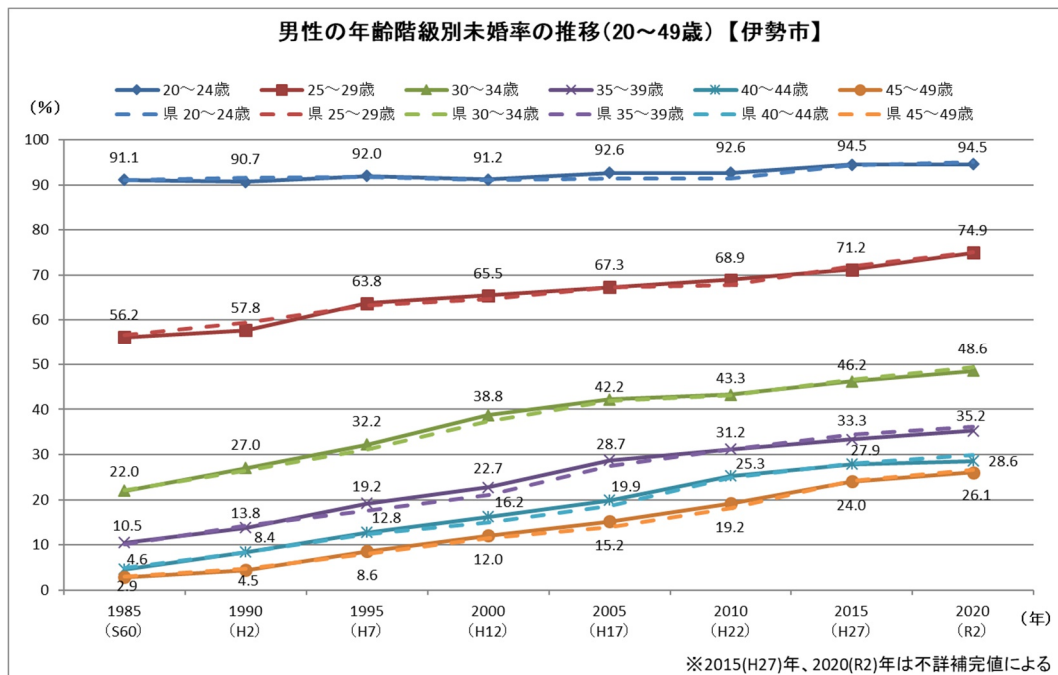
1 20歳から49歳の未婚率の推移



伊勢市の20～49歳の未婚率は、昭和60年以降、男女ともに上昇し続けています。また、男性の方が女性よりも未婚率が高い状況が続いており、令和2年では男性未婚率が女性未婚率より10.3ポイント高くなっています。

三重県平均と比較すると、伊勢市の男性は県とほぼ同様に推移していますが、女性は県よりも高く推移しており、未婚率が出生率や出生数に影響を与えていると考えられます。

2 20歳から49歳の年齢階級別の未婚率の推移



伊勢市では、概ね男女ともに25歳以上の未婚率が上昇傾向で、どの年齢層でも男性の未婚率が女性より高い状態が続いています。また、35年間で25～34歳の女性の未婚率の上昇が顕著になっています。

女性：25～29歳 令和2年61.3% 昭和60年29.5%の約2倍
 30～34歳 令和2年35.3% 昭和60年9.2%の約3.8倍

三重県平均と比較すると、男性はどの年齢層においても県とほぼ同様に推移していますが、女性は30歳以上で県よりも高く推移しています。

3 出生への影響

未婚率は上昇が継続しており、出生者数の減に影響を与えていると考えられます。さらに分析し、出生者数・出生率に影響する要因や個人が結婚・出産・子育てを選択しにくい要因を見つけ、改善を図ることで、結婚・出産・子育てを選択する人たちが増え、出生者数・出生率の改善に繋げることができると考えられます。

各表出典：「国勢調査結果」(総務省統計局) <https://www.e-stat.go.jp/stat-search?page=1&toukei=00200521>
 ※各グラフについては、上記「国勢調査結果」を加工して作成。